

経営理念

病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより 世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する



創業時の12名のメンバー



創業者 荻野 義夫

ME、それは医学と工学の出会い

今でこそ、ME (Medical ElectronicsあるいはMedical Engineering) という言葉は広く知られていますが、未だMEという言葉が生まれる以前、戦争末期の昭和19年頃から日本光電の胎動は始まっていました。

創業のきっかけとなったのは、小鳥の翼の神経筋でした

当時、電子工学の研究をしていた創業者 故荻野義夫は、偶然、小鳥の翼の神経筋を使った電気刺激実験を目にし、「生体の一部分が、日本中の電気の大家が研究した装置の何百分の一の大きさで、しかも感度は2桁以上」という、生物の驚異に感動を受けたのです。生物の中でも特に精巧な「人間」(=医学)を学び、生物のもつ精巧さを、より次元の高い工学へ応用できないか、医学と工学の接点を研究することにより、人の命を救うことができれば…。

その強い想いに動かされ、改めて医学を学び、1951年8月に会社を設立しました。

「病を癒す…それは主義や国境を越えるもの。どんなに情熱を注ぎ込んでも悔いはない」このゆるぎない信念のもと、医療現場に根ざした技術開発で、数々の革新的なME機器を送りだしてきました。

医療環境は変化し、日本光電が生み出す製品も多岐にわたってきましたが、創業時の信念は、今も変わることなく、技術者の中に受け継がれています。

これまでに開発した医療機器は、世界120ヵ国以上の医療現場でお使いいただき、多くの患者さんを救っています。「医療現場に根差した技術開発力」「国内外の幅広い顧客基盤」「高品質の製品・サービスとそれを支える開発・生産・販売・サービス体制」「長年にわたって培われたブランド力」という強みを活かし、これからも病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦し、世界に貢献する企業として、患者さんや医療従事者の皆様にとっての価値を創造・提供し続けます。

日本光電の軌跡

日本光電は1951年8月の創業以来、革新的な医療機器の提供を通じてヘルスケアの課題に挑戦し、社会に貢献することで、着実に成長してきました。

1951年12月

世界初の全交流直記式脳波装置 ME-1Dを発売
世界を変える脱・電池
交流電源駆動式の脳波計が誕生

当時の脳波装置のほとんどは、交流雑音障害を避けるため、電池を電源とした輸入品であったことから、検査の途中で電池がなくなり記録が途切れ、大切な脳波の現象記録を取り逃がしてしまったり、電池そのものの保守に問題がありました。日本光電では雑音障害の低減、操作性の改良などを行った、世界初の全交流直記式脳波装置を開発することで、適切な脳波検査の実施と検査結果の提供を可能とするとともに、患者さん、医療従事者の負荷軽減に寄与しました。



1967年4月

日本初の重症患者監視装置 ICU-80を発売
複数の患者さんのバイタルサインを集中管理
自社初のシステム製品を発売

重症患者監視装置は、ナースステーションに監視制御デスクを設置し、患者さん（最大8名）のベッドサイドに監視ユニットを設置することで、脳波、心電図、血圧、心拍数、呼吸数、体温の集中管理と記録を実現しました。これにより、ナースステーションにおいて患者さんの容態変化の把握や、バイタルサインの記録を可能とし、医療の質・安全性の向上、医療従事者の負荷軽減に寄与しました。



2021年10月

青柳卓雄博士 米国麻酔科学会栄誉賞を受賞

日本光電の技術者 故青柳卓雄 工学博士が、米国麻酔科学会 (ASA: American Society of Anesthesiologists) より 栄 誉 賞 (Honorary Member Award) を受賞しました。本賞は、麻酔科学や関連分野で傑出した功績を残した医師、科学者、会員を称えるものです。過去40年間に於いて7名に授与されており、青柳博士は日本人として初めて受賞しました。



1970年度
売上高 **44** 億円

2000年度
売上高 **667** 億円
国内売上高 594億円
海外売上高 73億円

2022年度
売上高 **2,066** 億円
国内売上高 1,357億円
海外売上高 708億円

1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	2020年代
<p>1952年3月 世界初の電気眼底（脳内）血圧計 MOB-1を発売</p> 	<p>1960年9月 日本初の多用途監視記録装置（ポリグラフ） RM-150を発売</p> 	<p>1974年3月 世界初となるパルスオキシメータの原理に関する国内特許を出願</p> 	<p>1984年2月 世界初のオールテレメータ化分娩監視装置 OMF-7201を発売</p> 	<p>1990年12月 日本初のデジタル心電図テレメータの医用テレメータ WEP-8430/8440を発売</p> 	<p>2003年5月 世界初のメインストリーム式で気管挿管していない患者さんに使用できるCO2センサを発売</p> 	<p>2018年8月 世界初の超音波プローブと接続してエコー画像を表示できる中位機種ベッドサイドモニタ CSM-1700を発売</p> 	<p>2022年2月 国産初のオートショック自動体外式除細動器 AED-3250を発売</p> 
<p>1955年6月 世界初の電子管記録式心電計 MC-1Cを発売</p> 	<p>1965年8月 日本初の直流式心室細動除去装置（デフィブリレータ）MDV-1を発売</p> 	<p>1976年11月 世界初のテレメータ患者監視装置 WEP-6000を発売</p> 	<p>1985年4月 世界初の呼吸総合モニタ OMR-7101を発売</p> 	<p>1991年3月 世界初のデジタル・マルチパラメータテレメータ式ベッドサイドモニタ BSM-8502を発売</p> 	<p>2009年6月 国産の自動体外式除細動器 AED-2100を発売</p> 	<p>2019年6月・9月 自社製初の人工呼吸器 NKV-330、NKV-550を発売</p> 	<p>2022年7月 当社初の新生児蘇生に特化した生体情報モニタ プレスキュー NRM-1300を国内で発売</p> 